

情報化 施工



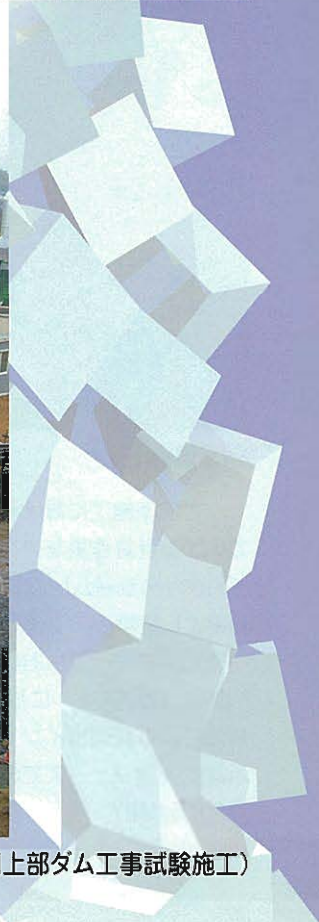
⇨ 空港滑走路工事における夜間作業中の3D-MCモータグレーダ(花巻空港滑走路延長工事)



⇨ ホットジョイント施工において先行フィニッシャのセンター側を3D-MCで制御(JH大山崎舗装工事)



⇨ 3D-MCブルドーザによる法面作業(2割5分勾配)、手前は自動追尾トータルステーション(九州電力小丸川上部ダム工事試験施工)





⇨路床転圧状況



⇨法面整地状況



⇨写真-1

次世代型施工における丁張設置では、従来法で必要な内業としての丁張計算作業を伴わず、設計フェーズで発生したプロダクトデータからシームレスに必要なデータを取得することが可能となり、効率よい現場での丁張設置が可能となる。(写真-1)

また出来形検測においても、従来型では巻尺によるスカラー値の測定(写真-2)にしか過ぎない管理方法も、次世代型ではTS観測により観測ポイントが全て位置情報として管理され、次にくる維持管理フェーズでの必要データとして位置づけられる。(本文21頁参照)



⇨写真-2